

知っていますか？

ボタンウキクサ（ウォーターレタス）を栽培してはいけません



ボタンウキクサ（ウォーターレタス）

ボタンウキクサ（別名ウォーターレタス）はアフリカ原産の外来植物で、法律によって栽培することや野外に捨てたりすること等が禁止されています。

繁殖力が強いので、池などに入ると水面を覆いつくし、もともとやんばるにいる生きものがすめない環境になってしまいます。やんばるでは主に用水路などに定着しています。

もし、ボタンウキクサを栽培している方がいらっしゃたら、燃えるゴミとして処理して頂くようお願いいたします（決して野外に捨てないでください）。

～やんばるに侵入している外来植物～

やんばるには既に様々な外来植物が侵入しています。普段からよく見かける草木も多いのではないのでしょうか。このような外から入ってきた植物が増えると、もともとやんばるにいた植物の居場所が減ってしまいます。

ギンネム



アユキセンダングサ（サシグサ）



ムラサキカタバミ（ヤファタグサ）

アメリカハマグルマ



モミジバヒルガオ



アフリカハウセンカ（インパチェンス）



ニュースレターに関するお問い合わせはこちらへ
環境省やんばる野生生物保護センター

〒905-1413 沖縄県国頭郡国頭村比地 263-1 TEL: 0980-50-1025 FAX: 0980-50-1026

※ニュースレターのバックナンバー（旧号）は、やんばる野生生物保護センターで配布しているほか、環境省ホームページでもご覧頂けます。 http://kyushu.env.go.jp/naha/nature/mat/m_2.html

やんばるニュースレター

発行：環境省やんばる野生生物保護センター

No. 8

Yambaru Newsletter

2009年3月
発行

～今回お知らせする内容～

- ・国頭村での自然再生事業の学習会について
- ・ボタンウキクサ（外来植物）について

「自然再生」という言葉を聞いたことがありますか。

過去に人の手によって損なわれた自然環境を積極的に取り戻そうとする取組を自然再生といいます。平成15年に「自然再生推進法」という法律が施行され、全国各地で様々な取組が行われていることからご存じの方も多いのではないのでしょうか。



今年度、やんばる野生生物保護センターでは、地域の方々からの要望を踏まえ、国頭村において、地域が主体となった自然再生の取組を支援することを目的に、地域住民の方々を対象にした自然再生に関する学習会を開催しています。



今回は、これまでに開催した3回の学習会の様子をご紹介します。

裏面へ続く



自然再生に関するホームページがあります。

環境省では、各地域の自然再生の概況や実情をお伝えし、自然再生に取り組んでいる方々、または取り組もうとしている方々の参考にしていただき、各地の自然再生にかかる取り組みが推進していくことを目的にホームページを作っています。

(<http://www.env.go.jp/nature/saisei/network/index.html>)

また、自然再生推進法を所管している環境省、農林水産省、国土交通省では、自然再生に関する相談窓口を各地域に設けています。詳しくはやんばる野生生物保護センターまでご連絡いただくか、上記ホームページをご覧ください。

第1回学習会（平成20年10月28日（火）18:15～20:15、国頭村商工会館 2階会議室）

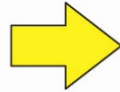
やんばる地域（国頭村）の自然や社会の現状を、主席したみなさんと共通認識しました。

- ・やんばるの自然環境の変化、特に土地利用、河川環境、海岸線が近年大きく変化していることを、写真を交えて紹介しました。

昭和30年頃



昭和30年頃、宇良川からナハマロー（東側の山）を望む（枝川ルミ子氏提供）



平成19年



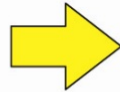
平成19年 宇良集落 2007年7月29日

宇良川の変化

昭和35年



1960年代の辺土名全景（キーストンスタジオ提供）



平成19年



辺土名の海岸の変化

・海岸線や河川の護岸などの整備によって、砂浜の減少（消失）や生きものの減少など自然環境の悪化が起きている一方で、これらの整備によって台風などから我々の生活が守られ、安全なものとなったことも再確認しました。

・また、自然再生推進法の概要や、各地で行われている自然再生事業の事例として、円山川水系（兵庫県）、阿蘇（熊本県・草原の再生）、蒲生干潟（宮城県）、小佐渡東部（新潟県・トキの再生）、奥川（沖縄県国頭村）を紹介しました。

学習会参加者からの意見

やんばるの豊かな自然環境と住民の生活・生産活動域が非常に近く、住民の活動が、即、自然に影響を与えるという現状から、自然を保全しながら住民の生活を成り立たせるにはどうしたらいいのか

自然再生は、地域にあったものであり、住民全体での取り組みや、地球温暖化対策への配慮が必要ではないか

自然再生とともに、地域活力の再生を図りたい

第2回学習会

『コウノトリが再生するもの』

菊地直樹さん（兵庫県立大学自然・環境科学研究所講師）

（平成20年12月18日（木）18:40～20:30 国頭村商工会館 2階会議室）

- ・単に自然環境の再生だけでなく、コウノトリと共存できる社会づくりを目指す様々な取組についてご紹介いただきました。
- ・区長会、農業協同組合、農業委員会、土地改良協議会、漁協や森林組合、文化協会、商工会、小学校長会、国交省、県民局、教育事務所など幅広い団体が構成される『コウノトリ野生復帰推進連絡協議会』が設立され、コウノトリを野生に戻すということを通して、どういう地域をつくっていくのかということを考えているということでした。

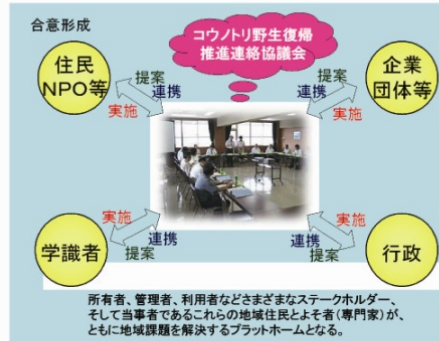


08/12/18

菊地直樹

兵庫県立大学自然・環境科学研究所

兵庫県立コウノトリの郷公園



・また、豊岡市では、豊岡市環境経済戦略として、環境を良くする取組と経済活動が、刺激し合いながら高まっていく、「環境と経済が共鳴」するような地域を創り上げることを目標としているということでした。

環境学習に修学旅行生を呼び込む、環境共生型の企業に進出してもらい、環境配慮する企業や技術開発に補助金を出す、コウノトリツーリズムガイドを養成する、地産地消で環境に負荷を与えないような商品をつくる「コウノトリ本舗」という店を運営するなどの仕組みを紹介頂きました。

第3回学習会

『自然再生と地域づくり』

島谷幸宏さん（九州大学大学院工学研究院教授）

（平成21年2月17日（火）18:30～20:30、国頭村商工会館 2階会議室）

全国の主に河川を中心とした自然再生による地域づくりの取組について講演頂きました。

「自然再生」は、地域づくり、地域再生の一つの手段として有効であり

「生き物に着目した地域づくり」

「自然を取り戻し、自然の恵みを得る」

「自然を取り戻し、コミュニティを再生する」ことがポイントになること、

また、今後訪れる「脱温暖化社会」「循環型社会」において重要となる自然エネルギー資源は、農村地帯に非常に多くあり、活用できることを話されました。

